

オルビス、「紺綬褒章(褒状)」を受章 国内外の環境保全活動支援に対して

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社（本社：東京都品川区、社長：小林琢磨）は、国内外で環境保全活動を行う公益財団法人オイスカ（本部：東京都杉並区、代表理事：中野悦子 以下オイスカ）への寄付が公益に資するものとして、日本政府より「紺綬褒章（褒状）」を受章し、1月24日にオイスカ本部にて伝達式が行われました。



伝達式の様子



植林作業を行うオルビス従業員

(中央左：オイスカ代表理事 中野悦子氏、中央右：オルビス取締役執行役員 福島幹之)

オルビスは1984年の創業当時より、様々な環境負荷低減の取り組みを行ってきました。2002年からはオイスカと協働で国内外の森林整備を中心とした環境保全活動を展開。国内では、山梨県甲州市の市有林「甲州市・オルビスの森」の整備・保全活動を継続して行っています。海外では、オイスカの「子供の森」計画を通じたグローバルな支援に取り組み、フィジー共和国の子供たちや地元関係者との交流、マングローブの植林などを行っています。これらの長年にわたる取り組みが認められ、この度オイスカより推薦を受け、同章の受章に至りました。

紺綬褒章について

公益のために私財（500万円以上）を寄付した者を対象として、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省などの推薦に基づき審査をし、授与を行っています。国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省などの申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄付が授与の対象となります（内閣府「勲章・褒章制度の概要」より）。

公益財団法人オイスカについて

1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなるよう研修を行っています。オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通しての啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。

オルビスでは環境保全への取り組みを専用サイトでご紹介しています。
是非こちらもご覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>